

平成 27 年度第 3 回横浜市緑区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会 議事録

開催日時	平成 28 年 3 月 30 日（水）午前 10 時から午前 12 時 05 分							
開催場所	緑区役所本庁舎 1 階 センター会議室							
出席者（敬称略） 順不同 50 音順	井上和子、上関裕之、添田好男、松浦千恵、村井祐一（委員長）、 横塚靖子（委員長職務代理者）、山口 章※ ※臨時委員							
欠席者（敬称略）	なし							
開催形態	公開（傍聴者無し） ただし、議題(6)面接審査及び(7)審議（指定管理者の候補者確定）は非公開							
議 題 等	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 応募状況・審査方法等について 3 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 公開・非公開の決定について (2) 最低基準点の設定について (3) 事業実績評価について (4) 財務評価について (5) その他報告について (6) 面施審査 (7) 指定管理者の候補者確定 4 閉会 							
決定事項	<p>以下の団体を指定管理者の候補者として選定し、緑区長に報告する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">施設名</th> <th style="width: 45%;">優先交渉権者</th> <th style="width: 30%;">評価得点/満点 (最低基準点)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鴨居</td> <td>社会福祉法人 清光会</td> <td>1,036 点/1,365 点(819 点)</td> </tr> </tbody> </table>		施設名	優先交渉権者	評価得点/満点 (最低基準点)	鴨居	社会福祉法人 清光会	1,036 点/1,365 点(819 点)
施設名	優先交渉権者	評価得点/満点 (最低基準点)						
鴨居	社会福祉法人 清光会	1,036 点/1,365 点(819 点)						
	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会（進行：委員長） <ol style="list-style-type: none"> (1) 挨拶 (2) 定足数確認 委員出席数 7 名（委員会成立確認 4 / 7 以上） 2 応募状況・審査方法等について（進行：委員長） (説明 事務局) 応募団体は 1 団体。（現指定管理者：社会福祉法人 清光会） 3 議事（進行：委員長） <ol style="list-style-type: none"> (1) 公開・非公開の決定について（説明 事務局） 平成 27 年度第 2 回委員会の議事内容を確認し、「面接審査」及び「審議」は非公開で行うことを再確認。 (2) 最低基準点の設定について（説明 事務局） 平成 27 年度第 2 回委員会の議事内容等を確認し、「最低基準点」を総合計の 60% とすることを再確認。あわせて、「前期指定管理者の実績」については、プラスマイナス 10 点の配点で標準が 0 点であること、現指定管理者以外が応募した場合に満点が変わってしまうことから、最低基準点の 60%からは除くことで確認。 							

- (3) 事業実績評価について（説明 事務局）
「事業実績評価資料」を確認
- (4) 財務評価について（説明 事務局、補足 上関委員）
「財務評価資料」を確認
- (5) その他報告について（説明 事務局）
指定管理者応募団体について、関係機関への照会結果を報告
- (6) 面接審査〔応募団体：社会福祉法人 清光会〕
〔プレゼンテーション概要〕
- ア 法人の基本方針・経営財務
- ・ 法人理念「豊かな心でさわやかな生活を」に基づき事業を実施。
 - ・ 自分の親ならどうするかを念頭に、「安心できる医療」「心あたたかな接遇」「快適な生活」を提供。
 - ・ 「利用者満足度」「安全管理」「職員の働きがい」「地域連携」「収益の確保」「サポーターづくり」の6つを基本方針としている。
 - ・ 法人及び当該地域ケアプラザの経営は、安定した収益を確保。
 - ・ 社会（地域）貢献活動を清光会の使命とし、「横浜型地域貢献企業」最上位を取得し、法人としての社会（地域）貢献活動を明確化している。
- イ 今期指定期間の振り返り
- ・ 鴨居地域ケアプラザのキャッチフレーズ「いつも寄り添う地域のパートナー」
 - ・ これまでの取組
 - 職員等の地域行事への参加による顔の見える関係づくり
 - 介護予防（元気づくりステーション等）の実施、担い手育成
 - シニア男性の介護予防と地域デビューのための男磨き講座「ダンディクラブ」の開催
 - 地域ケア会議の開催（地域包括ケアの構築に向けた取組）
 - 法律相談会、遺言・相続相談会、介護者のつどい等を開催
 - 鴨居地域ケアプラザの周年祭りを毎年開催
 - ボランティア活動支援・育成。独自の「鴨居地域ケアプラザボランティアカード」を作成
 - 団体交流として、登録団体交流会&登録団体紹介週間、配食サービス交流会、子育て団体連絡会&交流会等を実施
- ウ 次期指定管理に向けて
- ・ 「地域包括ケアシステム」の構築が大切と考えている。地域と築いてきた関係を生かし、地域ケア会議の開催を通じて、医療・介護・地域・地域資源との地域福祉ネットワークの中心的な役割を果たせるよう努めたい。
 - ・ 介護予防事業を進めるため、地域の元気な高齢者が介護予防に取り組める場づくりを行うとともに、社会資源や地域課題の把握を行い、地域に出るアウトリーチをしていきたい。
 - ・ 地域でのボランティア・人材育成に向け、地域の方が活躍できる環境づくりや、活動支援、人材育成を行いたい。
 - ・ 地域、利用者様、ご家族、職員にとって、地域ケアプラザがあってよかった、ここで仕事が出来てよかったと実感できる鴨居地域ケアプラザとしたい。

【質疑概要】

委員： 「ダンディクラブ」の参加者（シニア男性）には、将来どのような場で活躍してもらおうと考えているのか。

法人： 「ダンディクラブ」は、シニア男性を取り込むことを目指して企画した。平成 27 年度から始めた取組だが、手ごたえを感じており、28 年度にも実施を予定している。講座を実施するなかで参加者とのつながりもでき、27 年度の講座参加者には、28 年度の講座開催にご協力いただくことになっている。また、受講生の中から、「コーヒーボランティア」として活動してくださる方もでてきている。他地区でも、男性向けの講座として、歴史や健康麻雀などが行われているが、今回は「おしゃれ」の視点で実施した。参加者からは、「参加してみて、年をとっても身ぎれいにしていることが大切と感じた」という感想もいただいた。

委員： 良い取組だと思うので、今後はこれまで頑張ってきたシニア世代と、若い世代を結びつけるような取組も期待している。

委員： 他都市でも、高齢女性を対象としたファッションショーの講座で、介護予防に成果をあげていると聞く。「ダンディクラブ」は面白い取組だと感じる。今後は、男性の料理教室なども企画していただきたい。

委員： 居宅介護部門は「職員配置 3 名」との説明だったが、職員の中に医師はいるのか。鴨居地域ケアプラザの居宅介護部門では、具体的にどのようなケースを受けているのか。

法人： 居宅介護部門は、管理者が所長で職員が 2 名、あわせて 3 名の配置となっている。居宅介護部門の職種はケアマネジャーのため、職員としての医師の配置はないが、法人の特徴としてグループ法人（医療法人社団）に医師がいるため、2 か月に 1 度医療法人との連携会議を開催している。居宅介護支援に関する相談は、全て地域ケアプラザにある地域包括支援センターを通して、地域包括支援センターから各居宅介護支援事業所に依頼するというシステムになっている。鴨居地域ケアプラザの居宅介護部門では、地域包括支援センターで支援が難しいと判断した案件や、支援にあたって各所（区役所・区社会福祉協議会など）との連携が必要と判断した案件などについて、なるべく受けるようにしている。

委員： 「鴨居地域ケアプラザボランティアカード」の登録者の年齢構成はどうなっているのか。

法人： 構成としては、シニアの割合が多い。その一方で、「ちょいボラサポーターズクラブ」の中学生ボランティアにもカードを配布している。割合は少ないが、40～50 代の方もいる。この年代の方へのボランティア参加のきっかけづくりとして、地域ケアプラザで子育て支援の講座等がある際に、ケアプラザ屋上のデッキを使ってサロンを開催している。サロンでのコーヒーは、コーヒーボランティアの方がいれてくれている。

委員： 今後の職員配置や異動予定はどのようになっているか。

法人： 平成 28 年度より、居宅介護支援の職員を増員し、4 名体制とする。

また、全市的な地域ケアプラザ体制強化により、鴨居地域ケアプラザの職員配置数も増えたため、長年パートとして勤務していた職員を正規職員として採用し、28 年度より社会福祉士 1 名、生活支援コーディネーター 1 名の増員となる。現在、主任ケアマネジャーが欠員となっているが、6 月頃には採用予定である。

委員： 「鴨居地域ケアプラザ ボランティアカード」について、取組の経緯と成

果を教えて欲しい。

法人： この取組のきっかけは、ボランティア交流会において、ボランティアの方から「ボランティア活動は感謝の言葉がやりがいが、何か確認できるものがあれば励みになるのでは」との御意見を頂いたことが始まりとなった。現在、登録者は200名を超えている。たった1枚のカードだが、ボランティアの方の気持ちを支え、職員とのコミュニケーションツールにもなっている。ボランティアをしていただいた方への1年間のお礼としては、地域ケアプラザが普段提供している食事についても知っていただきたいの思いから、「デイサービスでの食事（バイキングスタイル）」とした。

委員： 横浜市の基本では、個別ケース地域ケア会議は“概ね3か月に1回程度の開催”となっている。事業計画書では、「年2回程度の個別ケース地域ケア会議と年1回程度の包括エリア地域ケア会議を、時間をかけて準備し、開催することを続ける」とあるが、できれば年4回程度開催して欲しいと考えるが、どうか。

法人： 横浜市の方針は理解している。回数を重ねることも大切だが、この2年間は、地域に「地域ケア会議」を理解していただくため、3地区を1回ずつそれぞれに3か月の準備期間を設け、丁寧に説明を重ね、区と協働しながら実施してきた。将来的には、1年で個別ケース地域ケア会議を3回程度（各地区1回ずつ）開催できるようにしたいが、実績としては、2年間で個別ケース地域ケア会議を3回、包括エリア地域ケア会議を1回開催となっている。

委員： 個別ケース地域ケア会議は、同じケースを2回は取り上げた方がよく、回数を重ねて議論することも大切なので、ぜひ検討していただきたい。

認知症サポーターについては、どう取り組んでいるか。

法人： 地域包括支援センターを含め、職員はキャラバン・メイトとなっている。地域向けに「認知症サポーター養成講座」を行っており、この2年で、白山地区で8の方がキャラバン・メイトとなった。鴨居地域ケアプラザでは、地域住民主体による認知症の普及啓発を支援しており、平成27年度には、緑小学校3年生を対象とした「認知症サポーター養成講座」を地域のキャラバン・メイトと一緒に実施した。平成28年度には、竹山病院、近隣の老人ホームからもサポーター養成講座の実施依頼が入っている。

委員： 今後は、認知症サポーターの活用も検討してもらいたい。

法人： 地域で育った人材を活用することは大切と考えており、竹山病院で行う認知症サポーター養成講座も、白山地区のキャラバン・メイトに協力していただき実施する。

(7) 指定管理者の候補者確定

[審議] (指定管理者の候補者の選出)

審査結果は次のとおり

[評価得点/満点(最低基準点)]

[1,036点/1,365点(819点)]

社会福祉法人 清光会を指定管理者の候補者とするを全員一致で決定し、緑区長に対し報告することとする。

	<p>〔審査講評〕</p> <p>現指定管理期間においては、地域支援を積極的に行うとともに、区と連携して取り組んだ「ダンディクラブ」（シニア男性を対象とした介護予防事業）や、「鴨居地域ケアプラザボランティアカード」など、独自の取組を工夫しながら実施している。また、高齢のみならず、子ども・障がいなど幅広い分野においても、関係事業所との交流会などを開催するなど、積極的に取り組んでいる。</p> <p>今後については、管轄エリアの高齢者人口の増加を踏まえ、地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域との信頼関係を更に深めるとともに、時代の変化にも対応しながら、地域のソーシャルキャピタルを高めるような取組を期待したい。その手段の一つである「地域ケア会議」については、管轄エリアが3連合自治会エリアにまたがることも踏まえながら、順次開催回数を増やすなど、より地域を巻き込んだ充実したものとすることを期待したい。あわせて、シニア男性を対象とした取組についても、世代間交流や料理など、一層の工夫をしながら実施していただきたい。</p> <p>4 閉会</p>
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 横浜市緑区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会員名簿 [資料1] ・ 横浜市緑区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会運営要綱 [資料2] ・ 横浜市緑区地域ケアプラザの指定管理者の候補者の選定等に関する要綱 [資料3] ・ 平成27年度第2回指定管理者選定委員会議事録 [資料4] ・ 平成27年度第3回指定管理者選定委員会当日スケジュール [資料5] ・ 面接審査評価シート [資料6] ・ 最低基準点の設定について [資料7] ・ 財務分析結果報告書 [資料8] ・ 応募団体申請書類一式